



## グループ・ダイナミクス事典

日本グループ・ダイナミクス学会 編 — 2026年1月刊行

A5判・464頁 定価 33,000円(本体 30,000円+税10%) ISBN978-4-621-31266-7

集団における人間の心理や行動を研究対象とするグループ・ダイナミクスは、人間の社会性を科学的に探究する学問として発展してきた。クルト・レヴィンに始まるこの学問においては、集団においてメンバーたちが影響を及ぼしあって作り上げる「心理的場」とその動態の変動、そしてそれと相互作用しあう心理や行動を合わせて究明していく。日本初となる本事典では、全162項目を社会的課題の解決に関する「現象編」と、理論的研究に関する「理論編」の2つのグループに分けて構成。激しく変動し、不確かで複雑、そして曖昧さの増す社会にあって、人間は何を思い、行動し、どんな「心理的場」を環境として生きていくのか。本書が扱うグループ・ダイナミクスが集団・社会の現象を理解し、直面する課題・問題の解決に貢献する局面は、今後さらに増えていくだろう。

最新情報・詳細は  
こちらから  
丸善出版  
ホームページへ



### 関連書籍



#### エッセンシャル 社会学事典 基礎・理論編

日本社会学会 社会学事典刊行委員会 編

A5判・268頁

定価 4,950円(本体 4,500円+税10%)

ISBN978-4-621-31186-8

『社会学事典』(2010年刊)から「第I部 社会学の見方 基礎と理論」を抜粋したエッセンシャル版。「社会」の発見など、現代を考えるための豊富な社会学理論は初学者にとっても必読。



#### 学校心理学事典

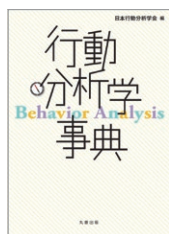
一般社団法人 日本学校心理学会 編

A5判・738頁

定価 26,400円(本体 24,000円+税10%)

ISBN978-4-621-31126-4

いじめ、貧困、多文化共生などの学校をとりまく課題に、心理学、教育、福祉、医療、司法などの分野からのアプローチを紹介。



#### 行動分析学事典

一般社団法人 日本行動分析学会 編

A5判・858頁

定価 22,000円(本体 20,000円+税10%)

ISBN978-4-621-30313-9

注目の高まる分野である行動分析学について、心理学を志す学生や一般社会人も手に取りやすい構成とし、基礎から応用、実践までを体系的に網羅した中項目事典。



#### 教育社会学事典

日本教育社会学会 編

A5判・910頁

定価 24,200円(本体 22,000円+税10%)

ISBN978-4-621-30233-0

教育社会学を、三部構成、全19章で解説。現代教育社会学の全体像を的確に描き出す。教育社会学の主要なテーマを300項目程度取り上げた中項目事典。

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部  
TEL (03)3512-3256 FAX (048)852-5591(受注センター) <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

### 編集幹事・委員一覧

#### 編集委員長

山口 裕幸 — 京都橘大学総合心理学部教授

#### 編集幹事(五十音順)

浦 光博 — 追手門学院大学教授

唐沢 かおり — 東京大学大学院人文社会系研究科教授

北村 英哉 — 清泉大学人間学部教授

西田 公昭 — 立正大学心理学部教授

村本 由紀子 — 東京大学大学院人文社会系研究科教授

矢守 克也 — 京都大学防災研究所教授

#### 編集委員(五十音順)

秋山 学 — 流通科学大学人間社会学部教授

池田 浩 — 九州大学大学院人間環境学研究院准教授

石井 敬子 — 名古屋大学大学院情報学研究科教授

稲増 一憲 — 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

大坪 庸介 — 東京大学大学院人文社会系研究科教授

尾崎 由佳 — 東洋大学社会学部教授

越智 啓太 — 法政大学文学部教授

尾見 康博 — 山梨大学大学院総合研究部教育学域教授

関谷 直也 — 東京大学大学院情報学環教授

竹村 和久 — 早稲田大学文学学術院教授

橋本 剛 — 静岡大学人文社会科学部教授

縄田 健悟 — 福岡大学人文学部准教授

三浦 麻子 — 大阪大学大学院人間科学研究科教授

宮本 匠 — 大阪大学大学院人間科学研究科准教授

八ッ塚 一郎 — 熊本大学大学院教育学研究科教授

山口(中上) 悦子 — 国際医療福祉大学医学部教授

日本グループ・ダイナミクス学会 編

# グループ・ダイナミクス事典

A5判・464頁  
定価 33,000円  
(本体 30,000円+税10%)

ISBN978-4-621-31266-7

集団内の心理や行動、場の特性と変遷から集団の在り方を研究するグループ・ダイナミクスの事典

丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちらから



※電子版発売、および販売ストア等とは変更になる場合がございます。



## 刊行にあたって

[illegible][illegible][illegible][illegible]

人類は集団で生活することによって厳しい自然環境に適応しつつ生き延び、進化の道を歩んできた。アリストテレスをして「社会的動物」と言わしめた人間に備わる社会性の解明は、人間たちが集団で生活し活動する様子に注目するところから始まると言って良いだろう。

集団における人間の心理や行動を研究対象とするグループ・ダイナミックスは、人間の社会性を科学的に探究する学問として発展してきた。グループ・ダイナミックスは、ドイツで位相幾何学 (topology) の研究を行っていたK.レヴィンが、第二次世界大戦中にナチスの迫害を逃れてアメリカに渡り、心理学へと研究の幅を広げる中で提唱するに至った学術領域である。(中略)

グループ・ダイナミックス事典を編纂するに当たって、取り上げるべき項目を洗い出したうえで、レヴィンに始まる研究の歩みを踏まえて、解説する項目を、社会的課題の解決に関するものと理論的研究に関するものの2つのグループに分けた。本事典において前者は「現象編」、後者は「理論編」として、2部構成としている。現象編で取り上げるべき項目は、時代と社会の変化を反映して多岐に渡っており、また他項目と密接に関連する関係にあることも多い。最近になって急速に関心を集めるようになった項目も少なくない。項目の捉え方次第で、類別すべきクラスターが異なるように考えられることも珍しくなく、多種多様な項目を、関連の深いものたちで一つのまとまり（クラスター）に整理していく作業は容易ではなかった。項目どうしの関連性を考慮して、関連の深い項目どうしを示す工夫も取り入れながら作業を進め、全体を構成するに至った。

「良い理論はと優れて実践的である」と言われる。本事典は、理論と実践をリンクさせながら、グループ・ダイナミックス研究の成果について理解を深めることに貢献することを一つの目途として編纂を進めてきた。激しく変動し、不確かで複雑、そして曖昧さの増す社会にあって、人間は何を思い、行動し、どんな「心理的場」を環境として生きていくのか。グループ・ダイナミックスが、集団・社会の現象を理解し、直面する課題・問題の解決に貢献する局面は、今後さらに増えてくると考えられる。(後略)

2025年10月

編集委員長 山口 裕幸

# 目次

現象編

- 1 コンフリクト  
偏見と差別／社会的排除／国際紛争／NIMBY／エスノセントリズム／交渉と合意形成／集団間紛争
- 2 多文化価値社会  
信頼社会・安心社会／日本型雇用システム／異文化適応／移民／外国人労働者／  
サブカルチャー／ポップカルチャー／ダイバーシティ／文化変容／社会階級／WEIRD
- 3 群集  
マス・コミュニケーション／プロパガンダ／流言／流行・普及／イベント／パニック／ファディズム／  
祭と祝祭性／社会運動／予言の自己成就／集合的(多元的)無知
- 4 ネット社会  
ネット社会とSNS／フェイクニュース／ネットリテラシー／炎上／サイバーセキュリティ／  
仮想現実／AI導入の課題
- 5 災害  
防災・減災／復旧・復興／危機管理／避難行動／リスク認知／リスクコミュニケーション／  
コミュニティ／被災者の心理／ボランティア／被災者支援／防災教育／記録と記憶
- 6 治安・犯罪  
テロリズム／ネット犯罪・トラブル／非行／ドメスティックバイオレンス／  
ホワイトカラー犯罪とモラルリスク・カスハラ／防犯
- 7 政治  
政治参加／政治的無関心／政治的社会化／政治的会話(議論)／世論／イデオロギー／政治的分極化／  
民主主義／正義(分配的正義)／世代／格差(不平等)と投票／環境問題
- 8 健康と支援  
看護／医療／新興感染症／障害・障害者／ソーシャルワーク／子どもと子育て／  
単身高齢者増加社会の看取り／単身高齢者とQOL／「生きづらさ」に寄り添う支援
- 9 学校  
学習意欲／受験／自分探し／外国人児童生徒／インクルーシブ教育／性教育／部活動／PTA／  
子どもの貧困問題／不登校／いじめ
- 10 産業  
職務ストレス／組織開発／組織文化／組織の社会的責任／組織社会化／チーム・マネジメント／  
組織パフォーマンス／ワークモチベーション／ワーク・ライフ・バランス／  
キャリア・ディベロップメント／人的資源管理／仕事における安全／不安全行為／事故防止
- 11 消費者問題  
詐欺・悪質商法／消費者保護／マーケティング／消費者行動

理 論 編

- 12 集団・文化  
場の理論／マイクロ・マクロ過程／集団錯誤の批判／集団構造／集団効果性／集団規範／  
同調・服従／リーダーシップ／集団意思決定／社会的アイデンティティ／協同と競争／集合現象／  
ホフステード指数／文化的自己観／文化進化
- 13 対人関係・対人行動  
対人魅力／親密化過程／援助行動／社会的孤立・孤独／社会関係資本／ソーシャル・サポート／  
攻撃性／社会的交換／社会的ネットワーク／排斥／愛着関係／コミュニケーション／非認知能力／  
ジェンダーロール
- 14 態度・認知  
道徳と責任／社会的動機／擬人化と非人間化／ステレオタイプと偏見／社会的判断／  
対人印象と評価／公正・公正感／自己／共感性／態度変容
- 15 方法論  
アクションリサーチ／実験室実験／現場研究／観察／質問紙調査／インタビュー／言説分析／  
計測手段／シミュレーション／統計分析／研究倫理／科学的方法
- 16 隣接領域  
社会神経科学／行動経済学／ゲーム理論／人間工学／計算社会科学／社会疫学／実験哲学／  
ポジティブ心理学